

福祉だより 信州



社会福祉 HERO'S vol.19

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

みんなで取り組む、災害に備えた
あんしんの仕組みづくりのために

No.

793

2022 2月号



実践目標 ⑦

みんなで取り組む、災害に備えた あんしんの仕組みづくりのために



令和元年東日本台風 復興フォーラム NAGANO

令和4年(2022年)
2月21日(月)
22日(火)

オンライン(Zoom)



申込QRコード

令和元年東日本台風から2年余り。8万人のボランティアをはじめ、多様な組織・団体の協働が復旧・復興のチカラになっています。

今、多発化する災害に備えて、災害福祉支援における「県域センター」機能の実現が必要となっています。県内での取組状況をお伝えします。

協働の「ハブ」となる 「災害福祉支援センター」機能の実現を目指して

令和元年東日本台風から2年余りが経過しました。この間、長野県内の被災地では8万人の災害ボランティアが被災者に寄り添う支援を展開。それを引き継いだ生活支援・地域ささえあいセンターを中心に、見守り・相談支援を継続し、被災住民の生活再建や持続可能な地域づくりへと住民が立ち上がる動きを支えてきました。

また、被災経験をふまえて、災害時要援護者支援など今後の防災福祉の充実に向けたチャレンジも動き始めています。

長野県社協では、平時から防災、地域、福祉の多様な協働を推進する災害福祉支援センター機能を令和4年度に整備できるよう、検討を進めています。

災害福祉支援を

「4本の矢」で推進

令和元年東日本台風の支援活動で核となった3つのネットワークは、「災害ボランティアセンター」「災害福祉広域支援ネットワーク」「NPOや企業等による長野県災害時支援ネットワーク」です。県社協では、これらに加えて、被災者の生活を継続的に支援する「生活支援」

長野県社協「災害福祉支援センター」のイメージ

「4本の矢」で推進!

① 災害ボランティアセンター



災害ボランティアセンターの環境整備、人材養成、運営支援

② 「災福ネット」の活動支援



被災者や被災事業所支援の促進

③ NPO、企業等多分野連携



災害支援に関わるNPO、企業、大学等、多分野との連携促進

④ 防災福祉・総合相談



平時から災害時につながる防災福祉・総合相談体制づくり

情報共有プラットフォーム
「防災福祉アプリ」協働活用の提案



長野県災害時支援ネットワーク(Nネット)



長野県災害福祉広域支援ネットワーク(災福ネット)

地域ささえあいセンター」による相談機能の強化に加え、「4本の矢」で災害福祉支援センターの機能を想定しています。「防災「地域「福祉」」の連携で動き出し、あんしんの仕組みづくりの一部分を紹介いたします。

① 防災・福祉・総合相談

やっぱり「住民支え合いマップづくり」が大切！

東日本台風災害でも活用された

災害時住民支え合いマップは平成18年度より各地域で取組が行われてきました。令和元年東日本台風で大きな被害を受けた長野市長沼地区でも、災害時住民支え合いマップの取組によって、多くの要配慮者が地域住民の支え合いによって避難することができました。

地域一体での防災への取組と日頃の顔の見える関係が合わさって、マップが有効的に活用されたからこそ実行できたのだと思います。

安心して住み続けられる地域づくりに向けて

一方、高齢化や人口減少、関係性の希薄化が進んでいる地域も多く、今まで当たり前前に助け合ってきた地域のつながりが保てなくなってきたところも増えてきています。大規模災害で一番大きなチカラになるのは隣近所による共助の力です。そこで改めて、災害時住民支え合いマップの取組を通じて、地域の共助の再生に向けた取組が進んでいます。

地域の皆さんが一つの地図を囲んで地域の情報を出し合うなかで、地域の状況を見える化し、名簿だけでは気づかないことも共有でき、地域の防災意識の向上にもつながります。また、平時の生活でも支援の輪



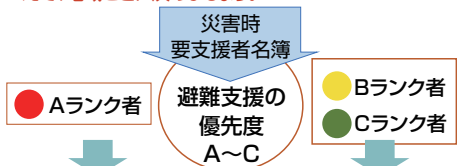
支え合いマップづくり(長野市長沼地区)

が広がり、新しい地域づくりにもつながります。

地球温暖化により頻発する豪雨災害や群発地震、南海トラフ地震などに備え、支え合いマップの取組を通じて、安心して生活できる地域の支え合いが高まることを願っています。

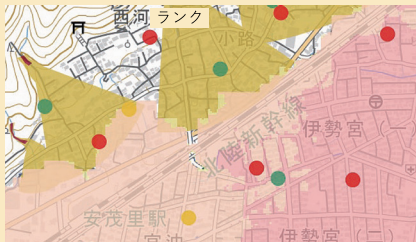
クラウドシステムを活用した「災害福祉カンタンマップ」

災害時要支援者の避難支援時のリスクをシンプルにABCランク分けして災福マップにインポート。マップで地域全体を見通して、支援の優先度を確認することから取組みがスタートします。ランク分けの基準は民生委員や福祉専門職の経験をふまえて、地域ごとに決めましょう。



「避難計画づくり」を促進する。

福祉介護事業所の在宅サービス利用者を避難困難度によりABC(赤黄緑)分けしてマップに見える化し、事業所として、優先度が高い方の個別避難計画づくりに取り組みます。



※サンプル画像

また、地域住民に災害時の支援をお願いする場合は、ハザードマップを印刷して地域に持参し、住民の取組を支援します。

福祉施設BCP

福祉事業所の事業継続計画づくりに活用

《住民支え合いマップづくり》

印刷して住民に提供



福祉専門職による避難支援にも期待が！

福祉サービス利用者を守るため「災害福祉カンタンマップ実証実験」

台風や大雨で災害が発生する恐れがある地域においては、事前の避難行動をとることが必要です。特に避難行動支援が必要な高齢者や障がい者等においては、地域の共助で早い段階から避難支援を行うために、情報共有が必要になります。

そこで、長野県社協では26団体に参加をいただき、どこに避難したか、安全は確保されているか等の安否確認をスムーズに行うため、要支援者の各種情報をオンラインで管理共有できるツールとして、令和3年1月よりオンラインシステムを活用した「災害福祉カンタンマップ」の実証実験を行ってきました。

システムには長野県内の福祉施設や避難所の情報、事前に同意を得た要支援者の情報を登録すると、その情報はデジタルマップ上に表示することができます。地図上に表示された要支援者は支援の必要度に合せて3段階で表示されます。医療ケアや移動困難等支援の優先度の高い方を赤色、近隣支援で避難可能な方を黄色、声掛け等で自力で避難できる方を緑色で表示。また国土地理院のハザード情報を重ねることで、居住地のリスクと本人の支援状況を併せ、避難支援の優先度を事前に検討することができます。

令和元年東日本台風では、当時、各種福祉施設や外部支援団体、地区役員等がそれぞれ安否確認を行いました。個人情報保護の理由で情報共有ができず、把握にかなりの時間を要しました。また、各団体が要支援者へ集中して安否確認の連絡をしたため、避難所では本人や家族の携帯電話が鳴り続ける等、重複した安否確認で避難した要支援者の負担が増えてしまった教訓をふまえて、避難行動、安否確認、被災後の復旧・復興の支援に活用できるように開発を進め、令和4年4月から「防災福祉アプリ共同活用ネット」として運用開始にむけて準備をしています。

② 災害ボランティアセンター

令和元年東日本台風の経験から再確認した 災害ボランティアセンターの機能と 地域を応援する人づくり

災害ボランティアセンターの使命

被災地の復旧を応援するボランティアの想いを受け止める災害ボランティアセンター（以下「災害VC」）。様々な地域から駆け付けるボランティアが、最大限に活躍できる場をコーディネートする機能の中心には、被災した地域住民の声があります。災害という思いがけない形で日常を奪われたその地に暮らす地域の皆さん。「日常を取り戻したい」「もう一度ここで暮らしたいからこそ手伝ってほしい」という声となり、その思いにボランティアが寄り添い活躍して応えています。

災害VCの最大の目標は「そこに暮らし続けたいという想いに応える」こと。そのためには、災害VCが地域のよろず相談としての機能を果たし、応えることができる体制を整えることが大切です。

様々な機関や団体と協働 災害ボランティアセンターの運営

災害時に災害ボランティアが活躍できるように災害VCの運営に様々な関係機関や団体が関わっています。また被災の規模により被災地域の関係者だけではなく、県内各地・全国各地からも応援を受けることも

あります。県内社会福祉協議会のネットワークによる災害VCの運営サポートチーム「長野県内社協職員災害初動時における先遣チーム（通称DSAT）」も令和元年東日本台風では、延べ160名を超える社協職員が各地の災害VCの運営支援を担いました。



令和3年の大雨災害での活動（茅野市）

DSATの活動経験が 次につながる

令和3年大雨災害を振り返る

昨年は、8月、9月に県内も大雨による被害が各地で発生しました。諏訪地域、上伊那地域では、災害VCを設置して被災地域に寄り添った活動が展開されました。

各地でこの運営の中心を担ったのは、令和元年東日本台風でDSATとして活動された方々です。当時の活動経験がスムーズなセンター開設と運営、丁寧な地域との関係づくりにつながったと振り返っています。

DSATが果たす役割 被災地域も被災社協も 支えるために

昨年12月、令和元年東日本台風でのDSATの活動を振り返りながら、これからの役割・機能を再確認する場が設けられました。現地に派遣されたメンバー自身の地域が被災して応援を受け入れたメンバーらが参加。「現地負担をいかに軽減できるか」「地元社協だからできることを地元社協が担えるように」「DSATの役割は、先遣だけではなく時間経過と併せた役割を果たす」など、それぞれの想いを共有し、これからのあり方を

DSAT 検討会議



DSAT各階層に求められる役割、必要なスキル

区分/役割

※は全社協の用語

<p>第1層（災害福祉支援スーパーバイザー） ※災害VCマネジャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害ボランティアセンターの立上げ、対応フェーズの移行、終結期の助言 ●被災地社協の災害対応、事業継続を総合的に助言 ●被災地における福祉専門職支援活動の企画、調整 ●福祉、建築、法律等の多様な専門職支援者と連携し、役割分担の中心を担う <p>※財源確保支援、行政との交渉</p>
<p>第2層（災害ボランティアセンター運営支援者） ※災害VC運営支援者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害ボランティアセンターリーダーの補佐、助言 ●多様な災害ボランティア、NPOとの連携、団体間のトラブル等に対応 ●福祉、建築、法律等の多様な専門職支援者と連携 ●ブロック内で、社協の関係研修等の企画、運営 <p>※災福ネット、Nネット、テクニカルチーム等との協働</p>
<p>第3層（災害ボランティアセンター運営スタッフ） ※災害VC運営支援者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害ボランティアセンターの各部門リーダーとして活動 ●DSATメンバーとして、災害ボランティアセンターの運営スタッフとして活動 ●災害ボランティアセンターでの運営スタッフやボランティア経験を積む ●自社協の防災研修、災害に備えた地域福祉活動を企画、実施

確認し合いました。DSATの活動は、チームとしての関係づくりが大前提となります。日頃からの地域福祉活動の延長線上に災害支援はあります。日常の業務を通して、市町村を超えたコミュニケーションと地域福祉活動の交流・情報交換が、非常時をつなぐ大切な機会となります。

③ NPO・企業等多分野連携

社協の限界が災害支援の限界にならないために 災害支援を軸とした「連携・協働」

令和元年東日本台風から 受け継いだバトン

堤防決壊によって壊滅的な被害に見舞われた長野市長沼地区。この地域の復旧支援にいち早く駆け付けたのは、全国で災害支援活動を展開するNPOやNGO。こうした皆さんとの協働なくしては復旧復興の道筋は立てられませんでした。

そこでできたつながりは、昨年の県内での大雨災害の際に当時駆け付けてくださった災害支援NPOの方々に声をかけて再集結し、災害V Cの活動と連携しながら支援活動が展開できました。



これからの災害に備えた連携 信州災害支援テクニカルチームと 長野県社協との協定締結

昨年12月、長野県に所縁のある災害支援のNPO4団体と長野県社協が災害時の支援に関する連携協定を締結しました。

協定を記念したトークセッションでは、昨年の茅野市での土石流災害時の支援活動を振り返り、連携協働することによって生

まれる相乗効果が被災した地域住民の暮らしを取り戻す近道になること、そこに暮らす住民を助たい目的はそれぞれ変わらなないことを確認しました。



協定を記念したトークセッション



信州災害支援テクニカルチームと
本会との協定締結(令和3年12月)

DRT JAPAN
ヒューマンシールド神戸
災害NGO 結
日本笑顔プロジェクト
長野県社会福祉協議会

災害に備えた「あんしんの仕組み」
長野県は全国的に見ても災害の多い地域です。日頃の地域の支え合いと、住民の想いを大切にされた様々な機関や団体との連携・協働により、災害に備えた「あんしん」の仕組みづくりを進めていきます。

information

令和元年東日本台風 復興フォーラム NAGANO

～復興期の被災者・被災地支援から未来に向けた発信～

《プログラム》

2月21日(月)

10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 16:00
社会福祉施設・事業所BCP (事業継続計画) 策定を みんなで進めよう! 〈講師〉後藤 至功 氏 佛教大学専門職キャリアサポートセンター専任講師	「災害福祉カンタンマップ」 実証実験成果発表会 ICTを活用して 防災×地区役員×福祉職の思いをつなぐ

2月22日(火)

復興NAGANOシンポジウム	
令和元年東日本台風から2年 災害コミュニティソーシャルワークから地域共生社会を描く	
〈講師〉石井 布紀子 氏	〈ゲスト〉阿部 由紀 氏
NPO 法人さくらネット 代表理事	石巻市社会福祉協議会 生活支援課課長
10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 15:00
<第1部>シンポジウム	<第2部>ディスカッション

令和4年(2022年)

2月21日(月) 10:30 ~ 16:00

2月22日(火) 10:30 ~ 15:00

参加方法 オンライン (Zoom)

定員 300名

参加費 無料

参加対象

社会福祉協議会職員、行政職員、社会福祉法人・福祉施設・福祉団体職員、地域包括支援センター職員、自主防災組織、民生委員・児童委員、地域づくり・まちづくり関係者、企業CSR担当者、災害・防災ボランティア・NPO、その他関心のある方

【お問合せ】

長野県社協 総務企画部 企画グループ
TEL: 026-228-4244 FAX: 026-228-0130
E-mail: kikaku@nsyakyu.or.jp

●申込方法

URL・QRコードから
2月15日(火)までにお申込ください。
<https://forms.gle/Hztf3wv1kJF55w8VA>

※申込アドレス宛に、Zoom用URLと資料を
2月18日(金)に送信します。



申込QRコード

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
地震・噴火・津波による死傷		×	○		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
	年間保険料		350円	500円	

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ぶくしの保険

検索

商品/パンフレットは
コチラ

(ぶくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(傷害保険)

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJ20-12302 2020.12.28 作成)

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ぶくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補償本 基本 (A型)	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付 見舞 費用 補償 (B型)	基本補償(A型) 保険料	+
	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円	

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



です。
充実した補償と
割安な保険料

スケールメリットを活かした

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJ20-12299 2020.12.28 作成)



コロナ禍でも復活させた 集落の獅子舞

〈連絡先〉広津の杜 獅子舞復活班
宮田紀英 090-4158-2962



日本人の祭りに対する想いを理解する上で重要なのが「ハレ」と「ケ」の概念。「ハレ」は「非日常」、「ケ」は「日常」。自然と神様に感謝し、生きることを喜び、地域を育てるために行ってきた祭りという「ハレ」の機会を楽しみにし「ケ」の日々を生きる活力の源としています。過疎化など時代の流れによって地域の祭りの存続にも影響がある中、池田町では、祭りへの想いを通して学生と地域の温かなつながりが生まれています。

🍀 お囃子と獅子舞の復活に取り組んだ「ひろつ もり広津の杜」

2018年から池田町なおりの山間部に位置する広津地区で山村の暮らしを体験してきた学生団体「広津の杜」。祭りの直会で「獅子舞を復活させたい」という声があがりました。過疎化によって獅子舞の伝承が途絶えてしまったとのこと。祭りが好きな学生有志によって、地区に残されたカセットやビデオから獅子舞復活プロジェクトが始まりました。

🍀 コロナ禍でも広津と学生が「想い」でつながる



プロジェクトが本格的に始まったのは2020年夏。中高生を含めた地区の方々や学生、松本市三才山の神楽保存会長など有志が集まり、練習が行われました。練習の最大の目的ははやし囃子と舞の技能向上でしたが、それ以上に広津の方々や学生との間に深い交流が生まれた点が重要だったと感じます。獅子舞は人から人へと直接伝えられてきたもの。ビデオなどを使った練習には限界がありましたが、広津の皆さんが「昔はこうやって舞った」と長期間の断絶を経て再び伝承される場を共有されたことで、より豊かな交流ができたと思います。祭りの前日には「お客様気分はお互いやめて、一緒に広津を盛り上げていこう」という声も。コロナ禍で人と会うことが難しくても獅子舞を復活させるという経験から、人と人がつながることの大切さを強く再認識しました。

🍀 続ける秘訣「ハレの機会をみんなで楽しむこと」

祭りの当日は、広津地区内外から多くの方が獅子舞の鑑賞に訪れました。昔この集落に住んでいた方の姿もありました。かつての広津地区の獅子舞は、儀礼というより娯楽としての側面が強く、かなり世俗的なものだったと聞きます。つまり、神だけでなく人々も楽しむ神楽、それがこの地区の獅子舞です。楽しむためには、楽しく続けていくことが大切。今後も多くの方々や繋がりながら獅子舞を続けていくことで、本当の意味での「復活」が果たせると考えています。



お囃子と獅子舞の復活



復活を楽しみにしていました

広津の杜の活動を **動画** で視聴できます! (第34回池田町社会福祉大会)

池田町社会福祉大会では、広津の杜をはじめ池田町での様々な団体の活動を映像にまとめ、コロナ禍でも地域を豊かにしている皆さんとのやり取りと動画から活動の価値や想いを共有しました。出演していただいた方々の他、映像編集、ナレーション、音楽提供など、たくさんの方の協力により映像が制作されました。

※当日の様子は池田町社会福祉協議会ホームページより視聴できます。



池田町社会福祉大会の様子

動画視聴はこちら
(池田町社協HP)



社会福祉 HERO'S

ウェブサイト「ひとりひとりが社会福祉HERO'S」から引用しています。
http://www.shafuku-heros.com/

福祉の現場で活躍する
ヒーローたちをご紹介します。



スポーツ&アカデミー
キョウミチの皆さん



続きはこちらから
ご覧いただけます



運動療育のために安全点検しながら
運動用具の準備中



お子さんの成長を見られる課題の丸付け作業

福祉のお仕事！ PR動画大賞



INSTA.PR.FUKUSHI



キョウミチ
青木島



キョウミチ
稲葉



キョウミチ
篠ノ井



キョウミチ
フログ

今回取材にお応えいただいた3名の座右の銘
やお仕事のやりがいとは？続きはQRコードから
ご覧いただけます。

福祉の仕事の魅力伝えるとともに、職員自身も改めて福祉の魅力を確認することを目的に、第2回福祉のお仕事インスタPR動画大賞が開催され、計16チームがエントリーしました。今回は大賞を受賞した株式会社ライフケアスポーツ&アカデミーキョウミチ(長野市で運動学習療育特化型の放課後等デイサービスを運営)にお話を伺いました。

Q 本イベントに参加したきっかけを教えてください。

A 昨年も同イベントに参加しており、今年も開催することを知ったのがきっかけです。元々、SNSでの情報発信には力を入れており、Instagram(インスタ)は各事業所で毎日投稿しています。今回は大賞をとるつもりでエントリーさせていただきました。

Q ICTやSNSを活用するにあたって工夫されていることはありますか。

A 毎日更新しているインスタでは、日常の様子をありのままお伝えできるよう意識しています。保護者の皆様にもお子さんと一緒にご覧いただけていることや、ご家庭での話題にもあがっていることが日々の励みになります。インスタでは普段の様子を目で見ていただき、更に興味をもっていた方にはブログを読んで詳

しく知っていただくことを目的として使い分けています。

Q ICTやSNSを活用するメリットを教えてください。

A プリント等の紙媒体だとどうしてもかさばってしまったり紛失してしまいますが、お手持ちのスマートフォン等で簡単にお好きな投稿をご覧いただけるのがメリットだと感じています。保護者の方だけでなく、インスタ等をご覧になって見学に来られる方もいらっしゃると思います。施設の利用や採用等のきっかけになればいいなと思います。また、保護者の皆様とのやり取りではLINEも活用しており、メールよりも気軽に連絡や相談をしていただけという工夫をしています。SNSへは加工をして投稿していますが、LINEでは加工のないありのままの写真をデータで簡単に共有できるので笑顔や真剣な表情をご覧いただけます。

●ご感想、お問合せ、 掲載希望等は下記へ お寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

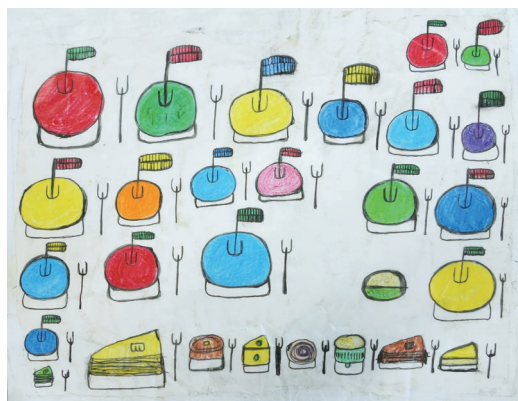
長野県
社会福祉協議会

福祉・
介護べり帖



長野県福祉研修
実施団体
きやりあねっと

信州福祉・
介護のひろば



ざわめくアート

『無題』 色鉛筆、クレヨン

作者:保科 真由(ほしな まゆ) 23歳
長野市在住

カラフルなりんご(と思われる)と、おいしそうなケーキが整然と並べられて描かれている。ケーキ屋さんのショーケースの中を覗いているみたいだ。『さあどうぞ』とばかりにフォークまで添えられて。真由さんはひたすらこのパターンの絵を描き続ける。アート活動で、ほかのモチーフや表現方法を提案しても『やらない!』と拒否。頑固なまでにりんごとケーキの絵を描き続ける。描き終わると裏面にその辺にあった紙きれを糊でぺたりと張り付けて、おしまいだ、とばかりにその場を出ていき、夕方スタッフの集まる事務所に行き、『コレワタシ』と主張するかのように空いている席にデンと置いてくるのだそう。まるで儀式をしているかのよう。なぜひたすら同じ絵を描き続けるの?なぜ林檎とケーキなの?うーむ、ワカラナイ。しかし残された絵には本当に美味しそうなりんごとケーキがそこにある。

(ながのアートミーティング 取材)